

# 愛知県感染症情報

## 平成 12 年第 4 週 ( 1 月第 4 週 )

### ( コメント )

インフルエンザの報告数は、先週の 3,768 人から 1.4 倍の 5,438 人に増加しています。定点当たり 44.2 人です。

感染性胃腸炎、A 群溶血性連鎖球菌、水痘は、先週に引き続き依然流行しています。

### ( 先生方からのコメント )

- ・ インフルエンザ様の熱性疾患が増加してきました。  
( 田原町 かわせ小児科 )
- ・ インフルエンザの熱性ケイレン 3 名 ( 2 才女 ワクチン 2 回スミ、1 才男 ワクチン 2 回スミ 発作もあり、8 才男 ワクチン未接種 )  
( 豊橋市 医療法人こどもの国大谷小児科 )
- ・ インフルエンザ増加傾向  
( 豊橋市 豊橋市民病院 )
- ・ インフルエンザ様疾患はまだ多くみられるが、先週より減少傾向があります。  
溶連菌感染症は相変わらずみられる。  
( 豊橋市 あずまだこどもクリニック )
- ・ インフルエンザは小流行と思われます。  
検査キットが手に入らず確定診断ができません。  
下痢が再び増えてきました。  
( 西尾市 やすい小児科 )
- ・ 1 月 24 日からインフルエンザ急増しました。  
( 碧南市 永井小児クリニック )
- ・ MCLS 2 例  
マイコプラズマ肺炎 1 例  
( 岡崎市 医療法人深田小児科 )
- ・ サルモネラとカンピロバクターの混合感染による腸炎 2 才女  
( 岡崎市 小児科延寿堂杉浦医院 )
- ・ ロタ 1 才男  
( 岡崎市 花田こどもクリニック )

- ・ 病原性大腸菌 0-1 VT1、VT2(-) 3才男  
 (岡崎市 竜美ヶ丘小児科スズキ医院)
- ・ 感染性胃腸炎 3名(カンピロバクタ 4才女、病原性大腸菌 0-6 20才以上男 20才以上女)  
 インフルエンザ ディレクティジェン FluA(+) 1才女  
 (知立市 近藤こどもクリニック)
- ・ 3ヶ月児 インフルエンザ母親から感染。  
 1才未満全て家族内感染、今週がピーク。  
 (豊田市 医療法人やふそ小児科)
- ・ 病原性大腸菌 0-6 8ヶ月男  
 (豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック)
- ・ A型インフルエンザ学童、幼児に流行中。  
 二峰性発熱も多く認められます。  
 ワクチン接種児(2回)にも罹患例がやや目立ちますが、非接種児に比して、発熱の割に全身状態良好のようです。アマンタジンが著効のようです。突発疹、水痘はまだ散発続いています。  
 (尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院)
- ・ インフルエンザが増加しています。A型インフルエンザにかかった子どもで、1~2週後に3~4日高熱のあるかぜがあります。  
 マイコプラズマ肺炎もあり、インフルエンザと合併した症例もあります。水痘も流行しています。  
 (瀬戸市 津田こどもクリニック)
- ・ インフルエンザ急増(A香港型多し)。  
 (小牧市 医療法人心正会鈴木小児科)
- ・ インフルエンザは、やや下火となりました。  
 病原性大腸菌による感染性胃腸炎1例ありました。  
 溶連菌感染症も3名ありました。  
 (春日井市 かちがわ北病院)
- ・ インフルエンザA 男9名、女10名  
 アデノでのウイルス感染症2名(5才男、5才女)  
 ロタウイルス感染症 3才女  
 (尾西市 城後小児科)
- ・ 水痘7才女 ワクチン歴あり。  
 溶連菌感染が目立ちました。小学生では、軽い発熱咽頭痛のものもあります。  
 二峰性の発熱の児多いです。  
 (一宮市 あさのこどもクリニック)

- ・ インフルエンザは、アマンタジン無効例やワクチン無効例が時々みられます。  
(一宮市 ささい小児科)
- ・ 小学校でクラス単位でかわるがわる(高熱、咳そうひどく欠席児童多く)短縮授業を数日間続けました。  
(一宮市 田中内科小児科)
- ・ インフルエンザ多発 90%以上アマンタジン反応 FluA(+)アマンタジン不反 FluA(-)アマンタジン不反 の3通りあり。二峰性 fever。  
(岩倉市 なかよしこどもクリニック)

(1~3類感染症の発生状況)

腸管出血性大腸菌感染症患者1名

岡崎保健所から報告の17才男 1/20発病、1/21初診、1/26診定。菌型は、O-157 VT1,VT2(+)

(全数把握の4類感染症の発生状況)

梅毒患者1名。

第2週(平成12年1月10日~1月16日)の4類感染症の全国状況  
インフルエンザの報告が急増しており、東海・北陸、近畿、中国・四国で平均の定点当たり報告数が10を超えている。患者の年齢階級別で見ると1~9歳が全体の46%を占めている。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎と感染性胃腸炎は例年よりやや定点当たり報告数が多くなっている。

(Infectious Diseases Weekly Reportより抜粋)

厚生省感染症研究所感染症情報センター感染症情報室提供)

年末から来名していますベトナムの若手の医師研修生が最初に覚えた日本語のひとつが「サムイ、サムイ」。暖冬が一転して寒気団襲来、厚着して出勤する昨今です。いつも貴重な情報を有難うございます。1 月前半のまとめをお送りします。

1. インフルエンザ情報：3 学期が始まって、小中学校の集団発生が各地区で見られるようになりました。愛知県・名古屋市各衛研の最新情報では、愛知県下の集団発生の主流は A ソ連型 H1 で一部地区で A 香港型 H3、名古屋市内の集団発生では年末に一部地区で A ソ連型 H1 であったのが年明けから A 香港型 H3 が主体となっていて、高齢者施設などで分離されるのも H3 型が主体となっています。現在のワクチン含有株との抗原性の違い、抗原変異の有無に関しては急遽検索中とのことです。ワクチン接種の有効性は成人ではある程度良好だが小児では接種者も罹患しているとか、小児例でインフルエンザ合併症として熱性痙攣重責・脳症で入院を要した例や二峰性発熱の後半で肺炎を合併して入院した例については全例ワクチン未接種であったという報告もいただいています。最高体温が 40 台で持続 4 日から 1 週間、二峰性発熱は例年より少ないが 4~5 歳や小学生の年長児でも熱性痙攣が目立つとか年少児で発熱・脱水・痙攣で入院する例が多いようです。前回同様のお願いです。先生方の地区のインフルエンザ、特に臨床症状や経過についてぜひ情報をお知らせくださいますようお願いいたします：最高体温と発熱期間、二峰性発熱、脳炎肺炎や筋炎の合併とワクチンの有効性など、第一線の日常診療で参考になる（感染症サーベイランスの数字には出てこないような）情報をおよせ下さい。

2. 名古屋市内：インフルエンザの流行と共にウイルス性の胃腸炎の発生は下火になりましたが相変わらず発生している地区（要入院例あり）もあるようです。気道感染症としてインフルエンザ以外に RS ウイルス感染症や仮性クループの入院例（緊急挿管例あり）、気管支肺炎による入院例が目立っています（第一日赤有吉先生、国立病院松下先生、城北病院渡辺先生、千種区今枝先生、三菱病院岩間先生、中京病院柴田先生、大同病院水野先生）。その他、溶連菌感染症目立つ、川崎病が持続、A 型肝炎（国立・松下先生、大同・水野先生）などのお手紙もいただきました。

3. 尾張地区：犬山市武内先生から白痢及び感染性胃腸炎多発中で水痘多発、インフルエンザ増加中、津島市民病院長田先生からはインフルエンザ A は 12 月に比べて減少している印象で嘔吐下痢の胃腸炎が多く要入院例が目立つ、江南市愛北病院水谷先生からはインフルエンザ A 流行中で要入院例あり、小学生の嘔吐下痢・発熱の感冒性消化不良とロタウイルス陽性の乳幼児嘔吐下痢症が増加中で要入院例目立つ、岩倉市永吉先生からはインフルエンザ A 陽性でアマダジン有効（一部には無効例も）のインフルエンザ多発、ワクチン無効例もあり、常滑市民病院肥田先生からは感冒性胃腸炎が年末に入院、年始からインフル A 陽性例が目立ち入院例あり、市立半田病院中島先生からもインフルエンザ A の流行が始まっているとのお手紙でした。

4. 三河地区：豊田地区ではインフルエンザ A 多発（高熱で要入院例あり）、麻疹が多くはないが流行中で、感冒性胃腸炎（軽症）が多発中（加茂病院大須賀先生、竹内病院梶田先生）、岡崎市民病院系洲先生からは RSV 感染症とインフルエンザが多発中で乳児の重症細気管支炎と川崎病が相変わらず多い、安城更生病院小川先生からは感染性胃腸炎がまだ多くインフルエンザ増加中（要入院例がバラバラ）、刈谷市田和先生からはインフルエンザ A 陽性例が多発、家族内発生もあり、二峰性発熱もしばしばあり、碧南市永井先生からはインフルエンザが出はじめたが流行という程ではなく、乳児の細気管支炎が時々あり、豊橋市宮澤先生からは水痘とインフルエンザが目立つ、とのお手紙でした。有難うございました。（文責磯村）